

ニュースレター

2023年7月

日本看護研究学会
九州・沖縄地方会事務局
第一薬科大学看護学部
姜 旻廷 竹井 千里
〒815-0037
福岡市南区玉川町 14
電話：(092)559-7331 (代表)

会員の皆様へ

一般社団法人 日本看護研究学会 九州・沖縄地方会会長 **長家智子**



一般社団法人 日本看護研究学会九州・沖縄地方会（以下、地方会）会員のみなさま、お元気でお過ごしのことと存じます。

さて、長く続いた COVID-19 による制限が緩和され、本年 5 月に 5 類に移行したことにより、一般社会では以前の生活に戻りつつあります。

医療現場でも、面会の緩和など一部制限がとれてきましたが、感染症患者がいなくなったわけではなく、まだまだ感染対策を継続した日常が当たり前となっています。会員の多くの方々が COVID-19 と向き合い、高い意識をもって日々奮闘されていることと思います。臨床の場の大変さを考えると、ただただ感謝するばかりです。

教育現場では、本年度に入り対面授業が増えているものの、医療現場での臨地実習を控えた学生のことを考えると、感染予防対策を継続している施設が多いのではないかと考えます。看護職の養成で大変重要な位置を占める臨地実習も、まだ本来の形での実施には戻らず、学内でのシミュレーション教育をはじめとして、学生の看護実践能力の向上のため様々な工夫をしておられることと思います。

会員の皆様のご苦労を心よりご拝察申し上げます。

さて、日本看護研究学会九州・沖縄地方会では、毎年学術集会を行っています。昨年は第 27 回地方会学術集会会長荒尾博美氏のご尽力により、対面での開催が実現致しました。学術集会会長の荒尾博美氏をはじめ、熊本保健科学大学の皆様には本当にご苦労をおかけしました。COVID-19 の感染状況から参加者は少なかったのですが、久々の対面での学術集会で、有意義で学ぶことの多いものとなりました。

第 27 回地方会学術集会会長荒尾博美氏をはじめ、学術集会の運営に関わられた皆様に深く感謝いたします。

第 27 回地方会学術集会の概略につきましては、学術集会会長の荒尾博美氏にまとめていただきました。この学術集会に参加し発表されました熊本保健科学大学大学院・NP0 老いと病いの文化研究所われもこの竹熊千晶氏と鹿児島大学病院の濱崎美穂氏には、発表を終えてのメッセージをまとめていただきました。皆様どうぞ一読いただきますよう、お願い申し上げます。

また、本年度に行われます第 28 回地方会学術集会は、鹿児島大学の松成裕子氏に学術集会会長をお願いいたしました。順調に準備を進めていただき、『時空を超え、学際的な看護の研究に挑む災害看護・高度実践看護師・離島へき地の連携－伝承・技・結－』をメインテーマとして、11 月 18 日(土)に鹿児島市で開催する予定となっております。こちらの案内についても掲載しておりますので、ご確認頂きますようお願いいたします。対面での開催予定ですので、皆様とお会いできるのではないかと楽しみにしております。是非とも、多くの皆様にご参加いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

本事務局は本年度が任期最後の年となっております。ニュースレター配信後、次期役員選挙についての連絡を行い、投票をお願いすることになります。その節は、是非とも投票の程よろしく願います。

最後になりましたが、事務局を含め慣れないことばかりで、会員の皆様にご迷惑をおかけしているかもしれません。何かありましたら、どうぞ事務局までご一報下さい。任期最後の 1 年を事務局一同頑張っておりますので、どうぞよろしく願います。

*** 事務局より ***

- ◆ ニュースレターは紙媒体を廃止し、ホームページ上に掲載することになりました。いつでもホームページにアクセスし、ニュースレターをご覧いただけます。

会員からのメッセージ

「日本看護研究学会 第27回九州・沖縄地方会学術集会に参加して」

熊本保健科学大学大学院・NPO 老いと病いの文化研究所われもこう 竹熊 千晶

“のさり” からみる老いの行方～ホームホスピスわれもこうの実践～

大学を卒業したその年に、熊本で開催された第10回日本看護研究学会に発表させていただいたのがこの学会とのお付き合いの始まりです。指導の先生に演題の抄録作成、スライド作成(当時パワポなんて便利なものはなく写真屋さんで作ってもらっていました)。そのうえで何回も発表の練習につきあってもらい、ものすごく緊張しながら会場で発表したことを覚えています。あれから、40年。なんとまあ、加齢力がついてきたことでしょう。

今回の地方大会会長は荒尾博美先生、大学の後輩です。頼まれたら断れません。シンポジウムのテーマは「よりよい看護実践のために学ぶ・教える・創ってみる」。その中の私の役割は「創ってみる」の部分でした。保健師としての仕事から始まり、現在私は大学で教育・研究を行いながら、12年前にNPOとしてホームホスピスの活動を始めました。「老いと病いの文化研究所われもこう」です。地域にある空き家を活用した看取りの活動を行っています。この活動そのものが、これまでの看護実践からより良いものを「創ってみた」結果です。

九州地方の方言「のさり」の研究から始まった「ホームホスピスわれもこう」の活動は、地域の空き家を活用して看取りまで丁寧に暮らしを繋いでいく“家”です。医療の高度化、長寿化は自ずと介護の長期化、重度化をもたらしました。一方で、独居の高齢者や老夫婦二人暮らし世帯の増加や家族の生活様式の多様化は、介護保険の制度があったとしても長期の在宅での療養や看取りは困難な場合が少なくありません。「われもこう」を始めて12年目。地域のなかで隠さずに看取りを行うことは、家族の絆や地域のつながりを緩やかに繋ぎ直し、暮らしやすいまちづくりになっていく可能性があると思っています。

学生として大学で学んだ「看護」のこと、自分の看護の実践の中の「問い」を探求していくこと、それをまた看護に還元していくこと、その繰り返しの途中です。新しい知見、なんてほど遠いのですが、目の前の私の対象となる看護の質の向上のため「ない社会資源は自分で創る！」これも学生の時に学んだことです。

鹿児島大学病院 濱崎 美穂

私は、日本看護研究学会第27回九州・沖縄地方会学術集会にて発表させていただく機会を与えて頂きました。このような貴重な体験をさせて頂きとても感謝いたします。

今回、コロナ禍でありましたが久しぶりの対面開催ということで多くの会員の皆様に参加されていました。口頭発表では、7分間の時間内に落ち着いて発表出来るように自宅で何度も練習し、発表に挑みました。発表終了後は緊張の糸も解け、貴重なご意見や質問を頂き、さらに研究の内容について深く考えることが出来ました。私にとっては大きな会場での発表が初めてだ

ったのでとても緊張しましたが、地方大会ということもあり、温かい雰囲気の中発表出来たことに感謝いたします。また、ポスター発表に参加させて頂いた際は、マスク越しでありましたが、お互いの表情をみながら言葉を交わし活発な意見交換がなされており、対面だから出来るいろいろな情報共有が出来ました。

今回の体験を活かし、これからも日々の様々な看護を通して、患者様やご家族への看護の質の向上にむけて看護研究を行い、学会発表に挑戦していきたいと思っています。

一般社団法人日本看護研究学会 第29回九州・沖縄地方会学術集会のご案内

- ◆ 学術集会長：宮崎大学医学部看護学科 木下 由美子
- ◆ 会期・会場：令和7年3月9日(土)・宮崎大学医学部 講義実習棟
- ◆ テーマ：多職種連携により対象者・家族のQOL向上を目指す

一般社団法人 日本看護研究学会 第27回九州・沖縄地方会学術集会を終えて

学術集会長 荒尾 博美（熊本保健科学大学）

日本看護研究学会第27回九州・沖縄地方会学術集会は、メインテーマを「よりよい看護実践を目指す科学的探究」とし、令和4年11月26日に熊本保健科学大学において3年ぶりに対面で開催いたしました。九州・沖縄地区内外から57名の方にご参加いただき、会員の皆さまをはじめ、多くの方々のご支援とご協力のもと、無事に終了することができました。

シンポジウムは、「よりよい看護実践を目指して、学ぶ・教える・創ってみる」をテーマとし、杉本智波氏（医療法人光川会 福岡脳神経外科病院 看護部長）、山本恵子氏（九州看護福祉大学 教授）、竹熊千晶氏（熊本保健科学大学 教授、NPO 老いと病いの文化研究所われもこう 代表）の3名にご登壇いただきました。3名のシンポジストが語られた自身の経験と看護への想いに触れ、看護に向き合う姿勢について改めて考える時間になりました。スペシャルセミナーでは、聞き書き作家の小田豊二氏にご講演いただきました。多くの方々の語りを聞いてこられた経験に基づいた話に引き込まれるとともに、おひとりおひとりが生きてきた物語を耳で聞くのではなく「目で聞く」という言葉が強く印象に残りました。

午後からの一般演題発表では、当日会場に会場できない発表者と会場をオンラインでつなぎ、意見交換をしていただくことを試みました。参加者の視線と同じくらいの位置にモニターを設置することによって、対面に近い雰囲気でのディスカッションができたのではないかと思います。

最後になりましたが、第27回の学術集会の開催にあたり、名誉会員の田島桂子先生より寄附金をいただきましたことをご報告いたします。そして、ご支援・ご協力くださった団体および関係者の皆さま、日本看護研究学会九州・沖縄地方会会長の長家智子先生ならびに事務局の先生方、企画・運営にご協力いただいた皆さま、学会開催を支えてくださったすべての方々へ心より感謝申し上げます。



一般社団法人 日本看護研究学会 第 28 回九州・沖縄地方会学術集会ご案内

メインテーマ 『時空を超え、学際的な看護の研究に挑む』

災害看護・高度実践看護師・離島へき地の連携—伝承・技・結—

日本看護研究学会 第 28 回九州・沖縄地方会
学術集会長 松成 裕子

このたび、一般社団法人日本看護研究学会第 28 回九州・沖縄地方会学術集会を令和 5 年 11 月 18 日に鹿児島で開催させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

本大会では、「学際的な防災減災に関する看護の研究」、そして、「高度実践看護師の技の発展」、「『結』の先人思想による助け合いに支えられた地域連携の進展」に取り組もうとするとき、時空を超えて、一伝承・技・結—を織りなすことで、実践現場・教育現場における課題軽減につながるのではないかと考えます。そして、看護の質の向上、社会への貢献に役立つヒントが何か得られますことを願っております。「学会発表をしたいけど、全国学会は敷居が高いし・・・」と躊躇されている方は、是非、この地方会で発表してみませんか。実質的で有意義な学会運営をめざし、実りの多い学会となるよう、関係者一同、懸命に準備を進めております。イベント感覚で、気軽にご参加頂き、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

◆日時：2023 年 11 月 18 日（土）

◆会場：鹿児島大学郡元キャンパス 稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール

◆プログラム

1. 特別講演「九州・沖縄高度実践看護師活動促進協会議の 2 年間の歩みと今後の課題」
講師：松枝 美智子 代表
2. 講演 1「看護職の専門性と新たな看護提供サービスを目指して」
講師：田畑 千穂子 氏
3. 講演 2「海洋・土木工学における防災教育の展望」
講師：小池 健太郎 主任研究官
4. 交流企画 「離島をつなぐ連携 長崎～鹿児島」、「桜島火山版避難所運営ゲームで防災・減災につなげよう」、「広島、長崎の原爆投下後の看護活動 DVD 視聴会」
5. 一般演題 口演、示説、遠隔システムによる口演

◆演題募集期間：2023 年 7 月 1 日（日）～2023 年 8 月 10 日（木）

◆参加登録期間：2023 年 7 月 1 日（日）～2023 年 9 月 30 日（土）

◆学会ホームページ：<https://csk-inc.org/jsnr-kyu28>

◆学術集会参加費

	会員	非会員	学生
事前参加申込み	4,000 円	4,500 円	大学院生 1,500 円（抄録代含） 学部生無料（抄録代別）
当日参加申込み	4,500 円	5,000 円	

◆事務局：鹿児島大学医学部保健学科内

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35-1

TEL&FAX：099-275-6754 Email：matsuy@health.nop.kagoshima-u.ac.jp